

社会調査の基礎

科目コード

CE4073



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	3年以上	三浦 剛(上)/村山 くみ(下)

※この科目は、2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前に入学した方は、同じ内容を「社会福祉援助技術論Ⅱ」として学習します。

※2019年度より担当教員が変更になりました。

※会場によりスクーリングを別教員（熊本博之先生）が担当いたします。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉実践における社会調査の役割は、近年ますます重要になっています。間接援助技術として強調されていた時代には、主にメゾ、マクロ領域を中心に用いられていました。しかし、近年ではリサーチに基づくソーシャルワークあるいはエビデンスに基づくソーシャルワークといった概念にみられるように、ミクロ領域を含む全ての社会福祉実践の領域に社会調査の知識と技術が必要とされています。

本科目では、主に以下の内容について学びます。

- ① 社会福祉における社会調査の役割
- ② 社会調査の概要
- ③ 社会調査の方法（量的および質的分析）
- ④ 統計法、社会調査における倫理と個人情報保護

■到達目標

- 1) 社会福祉調査の意義を近代史に位置付けて述べることができ、今日におけるその目的を説明できる。
- 2) 統計的方法の基礎を理解し、調査の枠組みが組めるようになる。
- 3) 調査票を作成したり結果の分析の方法に関する留意点が説明できる。
- 4) 少数事例実験計画や質的調査法について、社会福祉実践の評価と関連付けて説明できる。
- 5) 各種統計を統計法も参照しながら活用することができる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎（第3版）』中央法規出版、2013年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2013年4月

（スクーリング時の教科書）

【仙台・オンデマンド・ビデオ開講分】 プリントをスクーリング時に配付します。また、上記教科書も

随時参照します。

【東京開講分】上記教科書は参考程度に使用します。旧版を所持している場合でも、受講に支障が無いようにします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%+スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■参考図書

●初心者向け

平山尚・武田丈・呉裁喜・藤井美和・李政元『ソーシャルワーカーのための社会調査法』ミネルヴァ書房、2007年

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013年
斎藤嘉孝『社会福祉調査』新曜社、2014年

●ちょっと専門的に学びたい人にお勧めの文献

宝月誠・中道實・田中滋・中野正大『社会調査』有斐閣Sシリーズ、1998年

井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦代『よりよい社会調査をめざして』創元社、2001年

●調査した結果をコンピュータで分析してみたい人にお勧めの文献

※統計解析ソフト（SPSS）を利用することが前提

加藤千恵子・廬志和・石村貞夫『SPSS でやさしく学ぶ アンケート処理』東京図書、2005年

スクーリング

▶仙台・オンデマンド・ビデオ開講分 三浦 剛

■スクーリングで学んでほしいこと

「男性と女性では、〇〇に対する行動が異なるようだ…」といった話がみなさんの日常会話で登場することはありますか？あなたは、その時、何を根拠に、どのような基準で、判断をしますか？社会福祉と関わりが深い社会現象に対して私たちが何らかの議論や判断をする時、リサーチマインドに支えられた態度が必要になります。他方、社会福祉士として実践の効果がある／ない、といった判断を行うこともあるでしょう。社会調査ときくと、あまり身近には感じられないかもしれませんが、しかし、リサーチマインドが身につくと、自らの実践を振りかえる時の根拠や論理についての考え方が変わってくるはずです。本スクーリングはリサーチマインドを身につけるための入門的役割を果たすことを意識して開講します。講義中は、受講生が自主的に内容への理解を確認する／自らの理解を促進するために、お互いに意見を交換する機会を設けます。ピアワークが苦手な人もいると想像しますが、この講義では方針としてピアワークを採用していることを申し添えます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	リサーチマインドの理解	社会調査の考え方と社会福祉実践との関連性 テキスト、pp.8-19.
2	調査の倫理、デザインへの理解	目的のために適切に手段を選ぶ必要性 テキスト、pp.19、115-122、158-164.
3	調査の標本（サンプル）、質問項目への理解	ゴミ入れ・ゴミ出しにならない方法 テキスト、pp.38-39、56-58、63-71.
4	標本収集（サンプリング）の考え方①	標本を収集する際の法則を理解する テキスト、pp.51-62. ならびに初心者向け参考図書
5	標本収集（サンプリング）の考え方②	調査の質に標本がどう影響するかを理解する テキスト、pp.51-62. ならびに初心者向け参考図書
6	統計への理解	記述統計と推測統計 テキスト、pp.76-108.
7	統計の考え方①	確率分布と統計量 テキスト、pp.76-108. ならびに初心者向け参考図書
8	統計の考え方②	仮説と検定 テキスト、pp.76-108. ならびに中級者向け参考図書
9	スクーリング試験	上記1～8の内容に関する確認試験

■講義の進め方

講師が準備したパワーポイントと配付資料（配付プリント）を中心に講義を進めます。講義中の教科書使用は参考程度です。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（配付プリント、自筆ノート、教科書の持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：6～12時間）

上記の講義内容に該当する教科書部分を熟読して下さい。よく理解できない箇所に印をつけるなどの準備をして講義にのぞむと理解が深まります。

▶東京開講分 熊本 博之

■スクーリングで学んでほしいこと

- ・社会福祉士が社会調査を学ぶことの意義
- ・社会調査を実施する上で配慮すべき倫理
- ・社会調査の歴史、社会調査の必要性
- ・量的調査の基礎
- ・データ分析の基礎
- ・質的調査の基礎

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会調査の必要性、社会調査の歴史	社会調査が必要である理由を歴史的に考察する
2	社会調査における倫理	社会調査倫理綱領の意味と意義を考察する
3	量的調査の基礎①	仮説構築と調査票作成の基本を学ぶ
4	量的調査の基礎②	調査手法の種類とサンプリングの手法を学ぶ
5	データ分析の基礎	中央値、分散、標準偏差などの統計量を算出する
6	質的調査の基礎①	質的調査の特徴、手法、意義について学ぶ
7	質的調査の基礎②	インタビューの実践とドキュメンタリーの分析
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付するレジュメを中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。途中でピアワークを行います。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します(教科書・配付資料持込可)。試験では電卓を使用してもかまいませんが、スマートフォンなどの電子機器の持込は不可としますので、使用したい場合は電卓を持参してください。

■スクーリング事前学習(学習時間の目安: 5~10時間)

教科書の「はじめに」および1章(特に2節「社会福祉士の役割と社会調査」)を読んだ上で、社会調査についての知識をどのように社会調査士としての仕事に役立てたいか、考えてきてください。初回講義において発表してもらう予定です(1人あたり2分程度)。

■スクーリング事後学習(学習時間の目安: 20~25時間)

レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会調査と社会福祉(第1章、第7章)	ソーシャルワークの発達史を軸に、貧困調査に代表される社会調査とソーシャルワークの関連性を理解する。社会科学としてのソーシャルワークを理解する。	産業革命以降、ヨーロッパを中心とした人道主義的諸活動の発展とソーシャルワークの萌芽について確認しておきましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	社会福祉援助技術における社会調査 (第2章)	社会福祉援助技術における社会調査の意義、目的、種類と方法を理解する。	ソーシャルワークは「ミクロからマクロへの連続体である」ことの意味を事前に調べておきましょう。
3	社会福祉援助技術における社会調査 (テキストに該当箇所なし)	特に、社会福祉実践（ソーシャルワーク）の評価における社会調査の意義、目的、方法を理解する。	ソーシャルワークのプロセス（過程）における「評価」の意味を確認しましょう。
4	社会調査の概要 (第2章)	社会調査の分類、意義と目的、対象と方法について、また、社会調査のプロセスを理解する。	身のまわりにどのような「調査」がおこなわれているか調べてみましょう。
5	量的調査の方法 (第3章)	量的調査法の必要性を理解し、標本の抽出の方法から調査票作成までのプロセス、データ分析の手順を身につける。独立、従属変数の意味、変数の尺度水準を理解する。	量的調査のプロセスにおいて、大切なことは何か、説明できるようにしましょう。
6	量的データの分析 (第3章)	単純集計と1変量の性質を表す「記述統計量」について理解する。	平均や標準偏差、正規分布といった用語について、あらかじめ確認しておきましょう。
7	量的データの分析 (第3章)	2変量の関係を表す記述統計について、まず、相関関係を分析する方法を理解する。「統計的有意」の意味を理解する。	相関係数の意味（分析結果の読み方）がわかるようになりましょう。
8	量的データの分析 (第3章)	次いで、「検定」の意味と方法を理解する。「仮説」と「検定」の意味を理解する。	カイ自乗検定、t検定などの結果の解釈ができるようになりましょう。
9	量的データの分析 (第3章、第6章)	多変量解析の意味と、統計分析パッケージ・ソフトの利用の仕方について知る。	代表的なパッケージ・ソフトを利用した多変量解析結果の、基礎的な部分の解釈ができるようになりましょう。
10	質的調査の方法 (第4章)	質的調査の必要性と特徴を理解する。質的調査法の種類を理解する。	主観的データが重視されるようになった背景を考えてみましょう。
11	質的調査の方法 (第4章)	質的調査のプロセスについて、設計から対象者、手法の選定までを理解する。	質的調査において、なぜ厳密にプロセス、方法を守らなければならないのか説明できるようになりましょう。
12	質的調査の方法 (第4章)	調査の実施について、実際の調査手法に基づいて理解する。	KJ法やグループ・インタビューなどを例にとり質的調査の実施方法を、具体的に説明できるようにしましょう。
13	質的データの分析 (第4章)	1、2の質的調査手法を例に、逐語記録の作成から報告書の作成に到る一連の分析プロセスを理解する。	グラウンデッド・セオリーによる質的データの分析プロセスの概略を理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	統計法の概要と社会調査における倫理と個人情報保護(第5章)	統計法の概要と社会調査における倫理的配慮や個人情報保護の具体的手続きを知る。	統計法や各種統計を確認しましょう。調査依頼文書の作成を通して、倫理的配慮や個人情報保護の方法を具体的に理解しましょう。
15	まとめ 社会調査の実際	まとめとして、福祉的事象の理解から、仮説を立て、調査を企画、実施、データを分析する一連の作業を、実例に基づいて学び、社会調査に関する具体的なイメージを作る。	卒業論文を書く、などと仮定し、一連の手順を具体的にイメージしてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	社会福祉における社会調査の今日的役割について、歴史的経緯を踏まえて説明しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください (Web 解答可)。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題での提出は2020年9月で締め切りました。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

社会調査の歴史的な流れを概観したうえで、社会調査が今日の社会福祉にどのように生かされているのかについて述べてください。従来は社会福祉援助技術の中で間接援助技術として位置づけられ、主にメゾ・マクロ領域の実践を中心に用いられていましたが、近年ではミクロ領域においても社会調査で得られた知見を活用し、さらに、その技法を活用することも求められてきています。このような点にも着目し、具体例をあてはめながら学習するとより理解が深まります。

社会福祉と社会調査の歴史的関係について、さらに深く学習したい方は、リッチモンドの「社会診断」、ブースの「ロンドン調査」、エンゲルスの「イギリスにおける労働者階級の状態」などについて調べてみると良いでしょう。

2 単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

- ・本科目全体の内容についての理解を問います。
- ・問題の題意に適しているかどうかを問います。
- ・解答字数は、800字以上を基準といたします。